

Cantabile

2012. March

Vol. 7

発行
山形県音楽教育連盟
山形県小中学校教育研究会音楽部会
発行日
平成24年3月31日



東北プレ大会 置賜大会の様子

変革の時こそ 研修のチャンス

新会長 佐藤 文昭

小学校においては本年度から、中学校においては来年度から本格実施の学習指導要領。各校では、その趣旨を生かした創意あふれた実践が行われていることと存じます。先般の東北大震災で被害を受けた方々への支援のために、多くの音楽ボランティアが活躍し、被災者の心のケアに貢献したことを耳にし、音楽の持つ力の尊大さと音楽科の存在意義を改めて感じたところです。

さて、来年度に控えた東北音研に向けて精力的な取組みが進められています。プレ大会の意味も持たせ、本年度十月二十八日、赤湯小中学校で県内百名ほどの参会のもと、研究会が行われました。置賜地区の先生方の機運も高まり、来年度に向けて、さらに研究の深まりに期待が持てる大会でした。

また、十一月二日に今年度の東北音研大会が秋田で開催されました。さすが秋田市レベルの高い、いろいろと練られた大会でした。

いよいよ、来年度の東北音研大会は、置賜地区の総力を結集して、十月二十六日（金）開催されます。授業の他、研究演奏にも力が入っています。派手さを求めたり、大風呂敷を広げたりするのではなく、置賜地区ならではの子ども目線に立った、手づくりの大会にしていきたいと実行委員の先生方と話し合っています。改革の今、音楽科本来の教科の特性をかみしめ、真摯な取り組みを進めたいものです。置賜地区を起点とした「いっしょに」もつと「ずっと音楽」の大きなうねりに乗って、音楽教育に携わる私たちの更なる資質向上を図っていくことではありませんか。まず、参加することが研修の第一歩。是非ご参会下さい。

いっしょに音楽 もっと音楽 ずっと音楽

～音楽の「いのち」を活かし、「まなび」と「かかわり」のある活動の中で～

山形県音楽教育研究協議会置賜大会
平成23年10月28日(金)
南陽市立赤湯小学校
南陽市立赤湯中学校

【小学6年生 表現・器楽】

曲想を味わって
「風を切って」

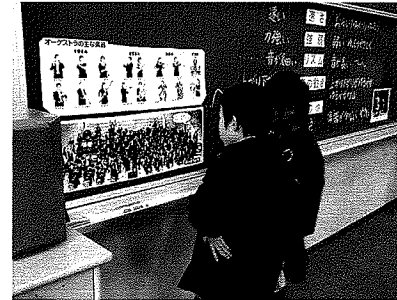
授業者：會田祐佳教諭
(南陽市立赤湯小学校)



【小学4年生 鑑賞】

音楽のとくちょうを感じ取ろう
「つるぎのまい」「白鳥」

授業者：太田洋子教諭
(高島町立和田小学校)



【小学4年生 表現・歌唱】

音の重なりを感じ取ろう
「レッツ・ダンス」

授業者：渡部美千代教諭
(川西町立小松小学校)



〈全体指導〉 大熊信彦氏

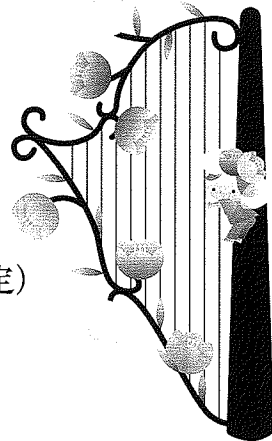
文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター
研究開発部 教育課程調査官

- ・新学習指導要領について具体的なお話をいただきました。
- ・指導と評価について詳しくご指導いただきました。



〈平成24年度の子定〉

- 4月 運営委員会・実行委員会
第1次案内発送
- 5月 指導案検討会①
- 6月 指導案検討会②
合唱指導者講習会
指導案検討会③
(大熊先生をお迎えする予定)
- 7月 指導案完成
第2次案内発送
- 8月 研究演奏リハーサル
- 10月 東北音楽研究大会 10月26日
- 12月 研究収録完成
- 2月 東北大会反省



【中学1年生 鑑賞】

映像と音楽の関わりによって生まれる効果を感じ取ろう
授業者：矢野晃子教諭 (南陽市立沖郷中学校)

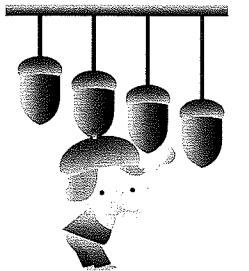
【中学2年生 表現・器楽】

楽曲の魅力を生かした表現の工夫
授業者：蓮沼節子教諭 (高島町立第一中学校)



〈これまでの研修内容〉

- 5月 大会主題、研究構想、組織・運営の決定
音楽科の指導の重点、指導案書式の確認
- 6月 合唱指導者講習会
- 7月 南陽・川西・高島音楽研修会
(講師・八木正一埼玉大学副学長)
- 8月 指導案検討会①
- 9月 指導案検討会②
川西町音研プレ指導案検討
- 10月 リハーサル授業
県音楽教育研究協議会
- 11月 高島町音研 授業研究
南陽市音研 授業研究
- 2月 H24東北大会授業構想研究・中学校



高等学校

期日 平成二十三年六月九、十日

会場 山形県立鶴岡中央高等学校 他

内容

(1) 研究授業

山形県立鶴岡中央業高等学校

松本光治 教諭

「アンサンブルに親しもう・I」

普通科一年生の選択者四十名による音楽Iの授業を公開した。「威風堂々」や「君をのせて」の楽曲をギターと主としてグループごと工夫し、アンサンブルを楽しむ授業であった。音楽Iの初期の授業ということで、親しみやすい楽曲を選び、ギターについては、正しい奏法以上に楽しむ奏法に主眼を置いた。ギターの他、歌や鍵盤楽器・打楽器を加える等、グループ毎、生徒の自由な発想で演奏を楽しんでいる様子が伺えた。研究授業は単元最後の発表会の時間で、緊張した生徒も見られたが、松本教諭や生徒同士、工夫の見られた箇所や演奏の良さを講評し合い、初めてのアンサンブルとしては達成感のある取り組みが見られた。

(2) 講演会

山形交響楽団音楽監督 飯森範親氏

「マエストロ出番ですよ」

二〇〇三年、山響の常任指揮者として依頼があった際、演奏技術の高さを感じつつもアピール不足を感じていた飯森氏は、条件として「二年間で団員のモチベーションを上げ、クオリティとアピール力を高めること」を挙げた。マネージメントにも力を入れ、現在、山響は日本文化を代表する楽団となっている。飯森氏自身が苦悩していた学生時代に、立ち直るきっかけを与えて

くれた指揮者ジャン・フルネ氏の教育力に感銘を受け、飯森氏が心がけている点は「人をきちんと見る」こと。プロの団員であれ、生徒であれ、「プライドを傷つけず」「何に長けているのかを見極め、見抜く」必要性を伝えてくれた。

(3) 研究発表

山形県立霞城学園高等学校

酒井久美子 教諭

「ひとつ上の充実感〜定時制高校

音楽部の活動を通して〜」

さまざまな生徒が集まってくる定時制高校において、演奏本番に「不安」や「恐怖」を抱える生徒。それら生徒の成長と、酒井教諭の奮闘の報告であった。「山形市内小・中・高校吹奏楽フェスティバル」で受賞した「ひとつ上の充実感」受賞や霞城セントラルにおける演奏会の様子、何より年月を経ていく中で、生徒たちの表情がいきいきと変化していく映像が印象的であった。

担当 笹原(庄内農業高等学校)



山形県音楽教育研究会

冬季研修会

今年度で三回目を迎える冬季研修会は、毎年新たな年を迎えた一月の始めに行われています。この会は、山形県の音楽教育における教師の授業力向上をめざして、研修を深めようという主旨で始められました。

開催時期については、各地区の協議会が終了した秋頃という案もありましたが、音楽科は各種演奏会が秋に行われることが多く、一堂に会しての開催が難しいということから、ここ三年間は冬に開催されています。

研修場所は、昨年度までは天童の県教育センターで行われていました。しかし、山形市での開催が望ましいという声があり、今年度は初めて山形市の学習センターで行われました。

研修内容は、今年度は、東北大会に向けて県のテーマの具現化に向けた話し合いということと午前中は、小・中二分科会で実践発表と協議を行いました。

小学校は、最北地区から、東根市立高崎小学校の村山瑞穂先生の「自信を持って歌うための歌唱指導法の工夫」についてと庄内地区から、鶴岡市立朝陽第三小学校の遠藤慧美先生から「合同音楽会への取り組みを通して歌う喜びを感じ合う合唱指導」についての実践発表がありました。中学校は、村山地区から中山町立中山中学校の武田裕子先生の「コンピュータソフトを用いた創作活動の楽しみ」についてと、庄内地区から酒田市立松山中学校の齊藤るり先生の「視点を絞った合唱表現の工夫や鑑賞のあり方」について実践発表がありました。いずれの発表も、明日からすぐ授業で使えるような具体的な指導内容の発表でした。

午後は、プレ大会の授業の振り返りと今後の方向性についてシンポジウムを行いました。県センターの岸主任指導主事をコーディネーターとし、県センターの須藤指導主事、山形市教育委員会の大沼指導主事、鶴岡市立上郷小学校校長金子研司先生、山形市立第五小学校教頭三森聡先生の四名がパネリストとなり、プレ大会の助言者の立場からテーマに沿って授業を振り返ると共に、今後の授業の方向性について提案されました。

忙しい時期ではありませんが、みんなが勉強し、一緒に高まる研修会として、定例化していきたいと県音連では考えています。



あとがき

第一回の会報は最上大会のプレ大会の様子を伝える内容でした。早いもので、あれから六年がたち、また再び山形県開催の東北大会が行われます。この六年間、各地区の協議会の様子や県音連主催の様々な行事・研修についてお知らせしてきました。精選された器楽アンサンブル講習会・各地区周りとなった合唱講習会・年々深まりを見せる作曲コンクール・新たな勉強の場としての冬季研修会。会報は提示部から、次の六年間は変化・発展する展開部になるように、これからも様々な角度から県の情報をお伝えしていきたいと思えます。

会報担当 色部(滝山小)

武山(山南小)

小島(山八中)